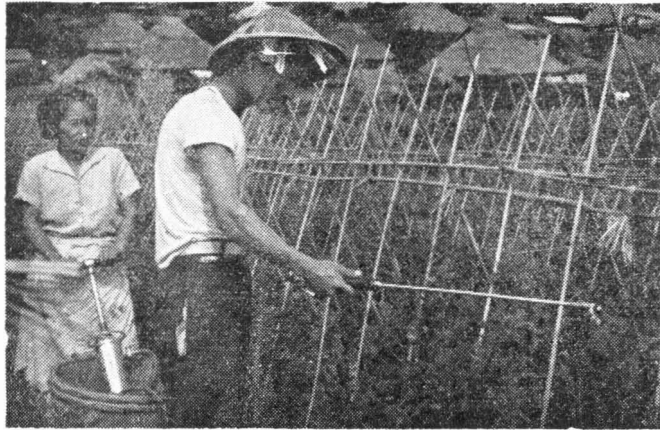


# 琉球大学学術リポジトリ

## トマトと馬鈴薯の疫病

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 俊一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19652">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19652</a>

# トマトと馬鈴薯の疫病



トマト疫病防止のためタイセンを撒布する当業者  
(首里 壺城区にて)

インフエスタンスの寄生によって起る。

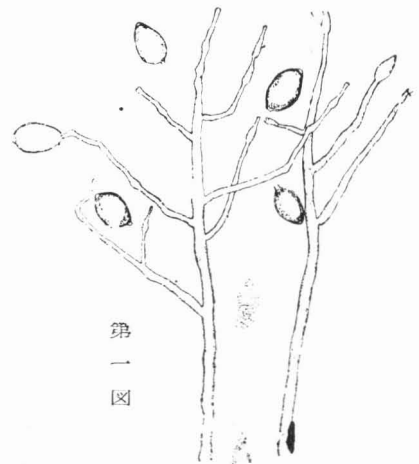
二、病徴 本病は葉、莖、果実に発生する。葉にあつては湯浸状の大型の病斑が出来暗緑色を呈する。病斑は楕円形のものが多い。多くは四種、長さ六乃至十厘米位のものまで色々である。下葉より発生し始め次第に上方に及ぶ。病斑の裏面を見るとワトン粉状のものがある。これは本菌の胞子と分生子梗(胞子を交えている梗)である。その形状は第一図に示す通りで、分生子梗は無色にして分岐し、その先端が少し膨らんでいてここに胞子を着けている。胞子は卵円形でその先端に乳頭状の突起がある。無色で一個の細胞から出来ている。

莖に出る病斑は暗黒色で細長い。大きさは色々で節(葉の着く部位)から節に亘るもの、節を超えて次の節にいたるものなどがある。巾は莖周の四分の一、三分の一、二分の一に及ぶものなどある。病勢がすすむと病斑も拡大しやがて腐敗する。同様の病斑が葉軸にも発生する。

果実に発生すると該部は少しく陥入し暗色をした雲状の病斑をつくる。健全部との境は不明瞭である。未熟の緑果を侵す。被害果は軟腐することなく健全部と同様の堅さを保っている。この被害果実を湿室に置くと二、三日中に病斑部は白粉乃至白綿状物をもつて被はれる。

三、伝染の経路 病菌は圃場に散逸した被害部と共に越冬し、翌年これより胞子を産して再び繁殖する。胞子の発芽適温は八〜一四度前後で最高三〇度最低七度である。然して本菌の生育適温は一四度である。

四、防除法 (一)、六斗式石灰ホルダー液(硫酸銅二二〇匁生灰八〇一、一〇〇匁、水六斗、膠着剤として薬液一斗に對



第一図

しグラミン、ニツテン、リノー等を〇・一〇・三匁(添加)を七〜一〇日おきに撒布する。(二)、王銅十二匁、水一斗、前記の展着剤加用の薬液やクボイド、調合量同じ、も効果がある。(三)、銅水銀剤(例フチホルダー、三共ホルダー等)も良い。割合量は前者と同じである。

(四)比較的新しい殺菌剤に「タイセン」がある。その水和剤八〜一二匁を水一斗に加えて攪拌し、展着剤の所要量を加えて撒布する。一反歩当り六斗六升から七斗五升を要し病害の甚しい時は五日おきに使用する。

(五)、被害果はなるべく早めに摘み取る。特に疫病の下葉は早く摘みとつて密閉状態にならぬようにする。

(六)本病菌は馬鈴薯にも疫病するのでその附近又は跡地をさける。

(七)、排水不良の土地に疫病が多いから排水を良くする事。

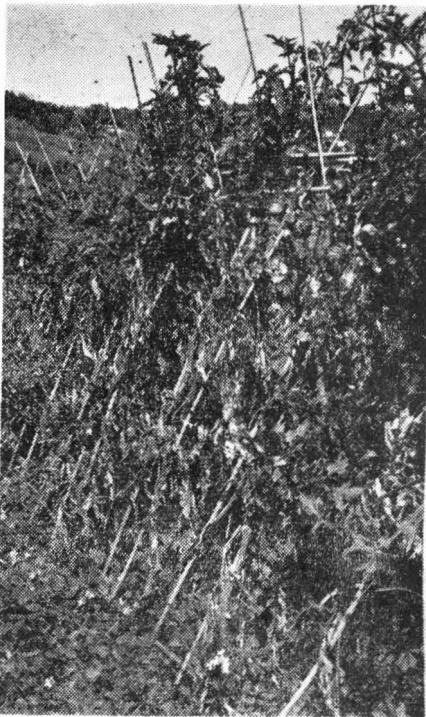
## (二) 馬鈴薯疫病

トマト疫病と同いカビの寄生によって起る疫病で、トマトよりむしろ馬鈴薯を犯す方が普通である。本年二月から三月にかけて首里の壺城区の畑をみたところによると疫病の発生したトマト畑に近接の馬鈴薯畑にも必ず疫病の発生があり相互に伝染

## (一) トマト疫病

二月に雨が降り続いて、やがてはれたと思つたらいろいろの病気が発生してきた。今年は何年になく「トマト疫病」が相當面積にわたつて発生しているので先ずこれについてのべる。

一、病名 本病は比較的下等なカビの一種であるヒトフトラ。



(写真説明)

上、トマト疫病のため下葉より上葉  
え次第に枯死しつつある状態。  
(首里金城区にて)

下、馬鈴薯疫病のため全株枯死せる  
畑(首里金城区にて)

左、馬鈴薯疫病軽度のもの。所々の  
小裂葉が枯死している。(首里  
金城区にて)



岩手三号、島原一四三号ホヘ、バタビア等は強病し難いとの  
ことである。「農業及園芸三月号の田中一郎氏の「馬鈴薯疫  
病防除について」と題する記事は同病に關する最近の動向を知  
るのに便利である。

(島 袋 俊 一)

し合っているのがよくわかる。  
馬鈴薯疫病は葉、莖、薯に發生する。葉の病斑は容易に黒別  
けがつく。即ち葉先又は葉縁に水浸状暗褐色不正形(多くは菱  
椀田状)の大形の病斑ができる。病勢がすすむと病斑は乾い  
て収縮しもうくなる。其頃になると葉裏にウドン糸状のものが  
出来るがこれは木病菌の胞子と分生子梗である。頭等鑑でみる  
とトマト疫病菌と全く同一のものであることがわかる。  
葉軸や莖にできる病斑は暗黒色である。薯では初め表面に褐  
色の小さな病斑が出来るが後凹入してやがて大きな病斑となり  
肉質部が褐色となつて腐敗する。  
伝染の経路は病原菌が殺害葉と共に土じょうに落下して越  
年する外、菌糸が種薯内で越冬し、この種薯の成長と共に菌糸  
ものびてやがて葉や薯を侵す第一次發生の源となる。よつて種  
薯は無病畑から健全薯を嚴重に選び出す必要がある。その他の  
防除法はトマト疫病に準ずる。但しホルダー液は三―四斗位の  
ものがよい。尚本病のよく發生する地域では抵抗性品種を考慮  
する必要がある。河合博士の著書によると農林一号、四号、

